

WHAT NOBODY SAW

FERDINANDO FREGA

FERDINANDO FREGA

誰も見なかったもの

The Art of Attraction · 03

カップルとすれ違ったとき、年齢を問わず、そのふたりを不釣り合いだと決めつけてしまうのは、たいてい女性たちだ。そして次の言葉はいつも同じ。今すれ違ったふたり、見た？ 彼女、なんてブスなの。いったいどうやってあんないい男をつかまえたのかしら。

疑いと好奇心が彼女たちを食い尽くす。長所は決して目に見えず、量は決して申告されないからだ。パトカーに護衛された現金輸送車のように。何を運んでいるのか、誰にも決してわからない。

私の文章に少し似ている。ハハハハハハ。

まさにこの考えの上に、人を知る私のやり方は築かれた。だからある晩、町のある建物の12階、ダンスパーティーが開かれていたテラスで、背が高く、がっしりして、汗ばんだ女の子が近づいてきて、スロージョウダンに誘ってきたのだ。

まわりの男たちが見ていた。私が彼らより優れていたからではなく、私がどう反応するかを見るためだった。彼らのほとんどが、すでに彼女を断っていたのだ。私はそれを知らなかった。

踊りながら会話が始めると、彼女の息は決していいとは言えなかったが、私は気づかないふりをした。私たちは一晩じゅう一緒に踊り、私は耳を傾けた。それから彼女は家まで送ってほしいと言った。バイクが怖いというので、彼女を喜ばせるために2キロ歩いた。

彼女は私の頬にキスをして、また明日会おうと言った。だが別れる前に、私が一度も言い寄らなかったことがうれしかった、と言った。

私は2キロ歩いてバイクまで戻った。その晩のことと、あのテラスにいたほかの女の子たちのことがまだ頭の中をめぐっていたが、なんとかたどり着いた。

友人たちが待っていた。どうだったか知りたがっていた。私が自分のことを話すのを好まないと知っていたから、私はただこう言った。いい子だよ。

でも、彼女が誰だか知ってるのか？ 知らない。

南イタリア最大の機械工場の工場長の娘だぞ。金がうなるほどある。

それで？

彼らは啞然とした。私はバイクに乗って家に帰った。

5日後、町のカフェで偶然彼女に会ったが、彼女は違っていた。変わっていた。

彼女は、なぜ私が彼女を探さなかったのかと尋ねた。だって家は知っていたし、今ごろはきっと、彼女と父親が何者なのかわかっているはずだ、と。

私は微笑んで言った。でも、俺がいったい何者か知ってるのかい？

彼女は立ち止まり、目を見開き、打たれたように、か細い声で答えた。あなたは誰なの？

パーティーできみと踊って、そのあと家まで送っていった男にすぎないよ。

45年たった今も、私たちは友人だ。彼女は結婚して、もうおばあちゃんだ。電話をかけ合い、挨拶を交わす。そして長い年月のあと、彼女は私のナラティブを読み、私が何者なのかを知った。

存在するとは思いもしないが、世界じゅうのすべての女性を踊らせる男。

Ferdinando